

ちどり

vol.55

JANUARY 2024



2024 新年のご挨拶

特集1 消化器内科のご紹介

特集2 循環器内科のご紹介

Contents

- 新年のご挨拶
- チーム医療：栄養管理室
- 総合支援センタートピックス
- おすすめスポット：薬剤部
- 古賀市健康福祉祭り
- 1 類感染症患者受け入れ訓練



病院の基本理念

「患者よし、職員よし、病院よし」

病院の運営方針

- ・ 病む人の人権を尊重し良心的な質の高い医療を提供します
- ・ 安全で心温まる医療を提供します
- ・ 臨床研究を推進し医学・医療の進歩に貢献します
- ・ 教育研修を通して人材育成に努めます
- ・ 新しい医療情報を発信し地域医療の発展に貢献します
- ・ 職員が一体となり健全な病院経営に努めます

新年あけまして おめでとうございます

院長 中根 博

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、よい年末年始をお過ごしになったことと存じます。2024 年は「甲辰（きのえたつ）」に当たるとのことです。「甲」は生命や物事の始まりを意味し、「辰」は草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子を表すとのことですから、どうやら運気の良い年のようです。

昨年、この稿を書いている頃は、COVID-19 の第 8 波の真っただ中で、院内クラスターが断続的に発生し、病棟閉鎖や救急受け入れの中止を余儀なくされ、重苦しい年末年始を迎えておりました。5 月に 5 類へ取り扱いが変更になってからは、当院では大きな混乱もなく COVID-19 の入院患者数は減少し、クラスターもおこらず通常の診療を継続することができました。これは、ひとえに地域の医療機関の皆様と住民の方々のご理解によるものと感謝しています。部門単位での食事会も再開され、コロナ前の生活に戻りつつあることを実感しています。

「医師の働き方改革」の法律施行が、今年の 4 月から開始されます。当院は、医師事務補助者の増員、勤怠管理システムの電子化、超勤者への健康指導、診療科長とのヒアリング、宿日直を夜勤体制に変更等々、早め早めに手を打ってきました。おかげで、最初は抵抗感を感じていた先生方も、徐々に新しい勤務体制に慣れてきたように感じます。複数主治医制、勤務線表の見直しなど、それぞれの診療科で業務の効率化に取り組んでいただいています。しかし、この体制を安定して運用するには、それなりの医師数が必要であり、医局から派遣者を増やしていただけるように、今後も病院の価値を高めていく必要性を感じています。

私が院長になったところからの懸案であった、内視鏡室の増床を 11 月に行い、4 床で運用できるようになりました。また、もう一つの懸案であった透析室の改修も少しずつ準備が進んでおり、今年中には 6 床から 12 床に増える予定です。手術室も今年度中に 4 室から 5 室に増室し、手術室内のインフラ整備を行って、より安全な環境で手術ができるようにする予定です。

人口動態が変化し、医療提供体制も変革を迫られている今、正解のない道を、病院ごとに選択して歩いていくことになります。感度の良いアンテナを張って、2024 年を迎えたいと思います。本年も、地域の皆様、職員、病院にとって良い 1 年となることを祈っています。



当院の消化器内科は肝臓、膵臓・胆道、消化管など消化器全般の内科的疾患を総合的に扱う診療科で、常勤医としてそれらすべての領域の専門医が在籍していることが特徴です。九州大学病態制御内科(第三内科)から派遣された医師を中心に鹿児島大学出身の医師および看護職、事務職の皆さんと一緒に日々の臨床を行っています。

当院は消化器病学会認定施設、消化器内視鏡学会指導施設、肝臓学会認定施設、膵臓学会認定指導施設、消化管学会指導施設であり、外科と連携を取りながら検査・治療にあたっています。

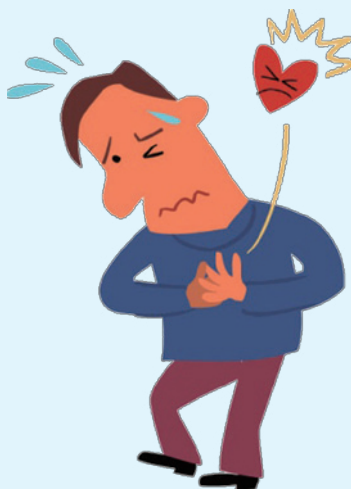
当科では上下部消化管、肝臓、膵臓・胆道などの各種疾患の診断・治療を行っています。なかでも肝臓腫瘍の検査・治療(生検、TACE、PRFA、全身化学療法)食道・胃静脈瘤の内視鏡的治療、膵臓・胆道疾患の内視鏡処置(ERCP/EUS関連手技)、胃や大腸の悪性腫瘍の内視鏡治療(ESD)など専門的な経験や手技を必要とする医療に力を入れており、特にこのような面でより近隣施設の先生方のお力になればと考えています。また当院は教育機関でもありますので研修医や専攻医など後進の育成も重要な役割であり、指導医による指導体制を整備しています。

当科の診療規模は外来・入院・検査ともにこの十数年で著明に増加してきました。それに対応して医師の数や診療可能な疾患・検査・治療も進化させてきましたが十分ではなくなってきておりさらなる変化が必要とされます。昨年11月には内視鏡室を改装し検査室を1室造設してオリンパスEVIS X1、GIF-1200Nなどを



新規導入しました。これにより検査件数の増加や待ち期間の短縮には直接はつながらないものの、検査・治療の質の向上と勤務環境の改善が見込めるのではないかと期待しています。

昨今の働き方改革の推進や専門医制度改革に伴い今後はさらなる診療内容の見直しを迫られており、当科単独ですべての疾患を入口から出口まで総合的に診療するのは困難な時代となってきたと感じています。一昨年に当院消化器内科医長であった坂井慈実先生が古賀駅前でめぐみクリニックを開業したのに続き、消化器内科センター長で炎症性腸疾患(IBD)を専門とする中村和彦先生も今年開業されます。当科と関連するOB・OGの施設も増えてまいりましたので、これからはこれまで以上に患者様周辺の施設の先生方のご協力を仰ぎながら長く続けることのできる医療を目指していきたいと思っています。



当科は5名の循環器専門医と1名の専修医の6名体制で、日々診療を行っています。

当院が救急指定を受ける以前から、近隣の病院に先駆けて急性心筋梗塞や心不全の救急患者さんを積極的に診療しており、現在も24時間365日、決して断わらない医療を実践しています。

狭心症、心筋梗塞といった虚血性心疾患は、時として分単位での緊急治療が必要となりますが、2部屋の血管造影室を駆使して昼夜問わず迅速な治療が可能です。

また、令和4年からは心房細動などの不整脈に対する

根治術としてのカテーテルアブレーションも本格的に始動し、安定した治療成績のもとに着実に治療件数を増やしています。

その他にも心不全や心臓弁膜症、心膜心筋疾患や先天性心疾患、動静脈疾患や高血圧などの様々な循環器疾患に対して、エコー、CT、MRIなどの画像診断装置も駆使しつつ、最新のエビデンスに基づいた診断と治療を提供しています。

心臓や血管病を患った患者さんに対する心臓リハビリテーションも積極的に実施しており、入院患者さんだ

けなく、外来通院でのリハビリテーションも毎日行っています(外来心臓リハビリテーションをご希望の際は一度当科の外来を受診いただく必要があります)。

令和5年の11月より当科では外来の事前予約制を導入しましたが、疾患の特性上、予約日まで待てない事も多々ありますので、そのような際には我慢せずに早めに受診させていただいてかまいません。

スタッフ一同、全ての患者さんを自身や家族と思い、親身な診療を心がけるよう日々努めていますので、安心して受診いただけましたら幸いです。

●当科診療実績：令和4年度

虚血性心疾患に対するカテーテル治療(PCI)：254件(急性心筋梗塞は60件)
ペースメーカー移植術：43件(リードレスペースメーカーは12件)
不整脈に対するカテーテルアブレーション：61件(心房細動は49件)

いずみ病棟を対象とした 栄養サポートチームを 新設しました



当院では2006年より栄養サポートチーム（NST）を結成し低栄養や栄養管理に関する相談などに対して週に一度多職種で集まりカンファレンス・回診を行い栄養管理のサポートを行っています。

いずみ病棟（重症心身障がい児（者）病棟）に入所されている方に対しても、経管栄養のトラブルや経口摂取不良がある場合には対応を行っていましたが、2022年度の診療報酬改定を機に、新たに「いずみ病棟NST」を結成し専門のチームとしても定期的に栄養状態の評価を行う体制を整えました。

いずみ病棟の栄養管理では経管栄養を実施する割合が約50%と多い状況があります。長期経管栄養に伴う栄養素の欠乏などが広く認知されてきており、チームで月に一度多職種でカンファレンスを行い微量元素等の栄養素の欠乏がないか、使用している経腸栄養剤を長期的に使用することで何らかのリスクにならないか、また経管栄養の回数や時間を見直すことで療育活

動に充てる時間を増やすことができないか等を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士で検討しています。チームで見直しを進めることでちょっとした問題などに気づきやすく栄養剤の工夫で便形状が良くなり、臀部の皮膚トラブルを未然に防ぐことができたり、検査値の改善に繋がったりする例もありました。

チーム活動を通じて経管栄養のトラブルを未然に防ぎ、行事や療育の時間の確保、生活の質を向上させることができるように栄養サポートを行ってまいります。



「古賀市図書館共催市民公開講座」の報告と「9月の患者サロン」を紹介します。

地域医療連携係長 中谷 綾子

古賀市図書館共催市民公開講座

『がんになっても自分らしく生きる』をテーマに11月18日に古賀市図書館で講演しました。訪問看護ステーション「こが」と一緒に、急性期病院での関わりから在宅支援、連携についてお話ししました。診断から治療、再発や終末期、それぞれの時期に起こる色々な不安に対して、精神的、経済的、就労支援など様々なことをサポートできる仕組みや場所があることをお伝えしました。

訪問看護の実際には、事例をもとにサービスの内容やがんリハビリテーション、在宅環境を一緒に考えていくことを話され、イメージしやすい内容でした。



9月に患者サロンを実施しました

コロナ禍で患者サロンをほとんど開催できていませんでしたが、9月に病棟の患者さんも参加できる形で開催しました。

今回は薬剤師より『抗がん剤の種類とその副作用に関するお悩み解決』をテーマにお話ししていただきました。抗がん剤と言えども、たくさんの種類があり、最近では免疫チェックポイント阻害薬も増え、その副作用も様々です。

自分が治療している薬がどのようなものか知ることができ、その副作用と対応について分かりやすい説明でした。薬剤師に質問し話す機会が少ないため、患者さんにとって専門職に直接聞く機会となり安心に繋がったようです。薬剤師にとっても身近に感じてもらえるよい機会となりました。

がん患者さん・ご家族のための語らいの場
「ひまわりサロン」

**抗がん剤の種類と
その副作用に
関するお悩み解決**
薬剤主任 薮内由里香 先生

日程 **2023年9月27日（水）**

時間 **14：00～14：30** 気になる
ことお答え
します！

場所 **福岡東医療センター
2階カンファレンス室**

当院の

おすすめスポット



薬剤部 外来棟2階DI室のご紹介

薬剤師 江頭 順子
薬剤師 上村 美結



DI (Drug Information) 室には、様々な疾患に関するガイドラインや書籍を取り揃えており、これらの情報を参考にしながら医師や看護師など他職種からの問い合わせに対応しています。また、患者向けの抗がん剤や医療用麻薬に関するパンフレット、インスリンや吸入薬の練習用キットなどの資材も準備し、充実した服薬指導を行えるように取り組んでおります。薬に関して何かご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください。



調剤室



注射室



窓口

外来棟2階化学療法室の通りに位置しております。御用の際はまずは薬局窓口へお越しください。

薬剤部は、薬剤師17名、薬剤助手4名の計21名で日々業務に従事しております。内服薬や注射剤の調剤や抗がん剤調製、病棟薬剤業務、チーム医療への参加など、薬物治療の向上に努めています。



第37回 古賀市健康福祉まつりに参加して

庶務班長 近藤 拓哉



合で水剤を作る体験ができます。無事におくすりが出来上がると「こども薬剤師」の賞状をお渡しして記念撮影をしていただきました。

この2つのコーナーは小さなお子さん

去る令和5年10月15日(日)サンコスモ古賀に於いて、「第37回古賀市健康福祉まつり」が開催されました。昨年度は時間を短縮、規模を縮小したうえでの開催でしたが、今年度はコロナ禍を経て、令和元年度以来のフル開催です。当院は、福岡女学院看護大学、粕屋医師会とともに共催として、出展させていただきました。当日は28名の職員(医師、看護師、コメディカル、事務)にて参加しました。

各出展団体より趣向を凝らした様々な催しが行われる中、当院ブースからは5つの出展を行いました。「こども白衣体験」は、白衣の着衣体験ができるコーナーです。白衣を着用後、聴診器・血圧計・撮子といった医療器具に触れていただき、看護業務の体験を行っていただきました。「こども薬局体験」は、薬剤師のしごとの体験ができるコーナーです。マールチョコやポイフル、金平糖といったお菓子を分包機にて分包する作業や、粉末ジュースと水の溶解混



は勿論ですが、親御さまにも喜ばれており、大変賑わっております。他にも、テントの中でイルミネーションや光ファイバー、映像を使用し鑑賞体験をしてもらう「リラックスルーム」、クイズを交えて栄養指導を行う「食教育」、2ステップによるロコモティブシンドロームのチェックを行い、トレーニング方法を紹介する「ロコモ体操」など、老若男女問わず多くの方楽しんでいただけたと思います。途中で、院長をはじめ病院幹部も見に来られ、来場者が喜ばれている様子を温かく見守っておられました。最終的な当院ブースへの来場者は348名(大人258名、子ども90名)と大盛況のうちに終了しました。

ブースの飾りつけが不足していた、担当者不足で休憩が取れなかった、などの問題もありましたが、振り返りを行い、来年度の参加に向けてよりよい出展内容を検討していきたいと考えます。

日曜日にも関わらず、ご尽力いただきました職員の皆様へ、この場をお借りして御礼を申し上げます。



1類感染症患者受け入れ訓練

感染症内科 肥山 和俊



写真⑤

近年、アフリカにおけるマールブルグ病など海外からの新興・再興感染症の話題がマスコミを賑わせています。交通機関の発達した昨今は世界規模で瞬く間に感染が拡大する可能性があり常に警戒が必要です。特に福岡地区は福岡空港や博多港があり、海外との人的往来も盛んなため、検疫での水際対策そして感染を封じ込めるための収容医療機関は非常に重要です。

当院は平成26年から第一種感染症指定医療機関に指定されています。第一種感染症指定医療機関とは感染症法で規定する『感染力や重篤性からみた危険性が極めて高い』1類感染症(エボラ出血熱、マールブルグ病など7疾患)患者を収容し治療する医療機関です。受け

入れに際しては行政や検疫所との連携が非常に重要です。そのため関係機関との合同訓練を年に数回行っています。

今回の訓練は「エボラ出血熱発生地域の医療機関で従事していた福岡市在住の男性が、帰国後に発熱した。」と想定して訓練を実施しました。保健所からの受け入れ要請の連絡を受

けると、直ちに病院幹部や関係各部門で情報共有を行います。受け入れ病棟の準備を速やかに行い、その後受け入れ時間を調整します。患者様は行政機関の搬送車で搬送され、院内感染を防止するため外部から入室します(写真①)。入室後は感染防止に細心の注意を払いながら个人防护具(PPE)着用の上、診

察、検体採取及び胸部レントゲン検査を行います(写真②)。採取した検体は専用検査室内の安全キャビネット内にて検査を行い(写真③)、行政が行う検査検体は厳重に梱包し、東京の専門検査機関へ送ります(写真④)。

コロナ禍のため4年ぶりの開催となりましたが、个人防护具着用下での作業の煩雑さ、視界の悪さなど改めて受け入れは大変であると感じました。訓練終了後には行政機関と活発な意見交換が行われ、今まで見落としていた問題点や改善点が浮かび上がってきました(写真⑤)。国を越えての人の往来がますます活発化する国際状況にあっては、今回、社会を揺るがした新型コロナウイルス感染症やマールブルグ病をはじめとした新たな感染症がいつ侵入するのか予想することが出来ません。そうした有事に備えるために今後も感染症センターの役割はあり続けるものと思います。

末筆ながら行政関係者と地域の皆様方に感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。



写真①



写真②



写真③



写真④

編集後記

2024年がスタートしました。2023年の病院のインフラ整備といえば内視鏡室の増床が挙げられます。私、消化器外科医の立場からは消化器内科の存在は絶対的で、定例の検査だけでなく時間外の緊急の検査や処置も快く引き受けてくれます。内視鏡室の増床は消化器内科医への恩恵だけでなく、回り巡って消化器外科医への恩恵をもたらすものだと思います。2024年は手術室の増室に取り掛かる予定です。手術室の増室だけでなく、モニターシステムなどの設置も予定されているそうです。手術室増室により時間に余裕を持った手術が可能となり、モニターシステム設置に

より手術の安全性が高まり、教育の面でも多大な貢献があると思います。それらはよりよい人材派遣、手術件数の増加に繋がっていきます。手術件数の増加はそれに伴う検査の増加に繋がり、手術室の改修は外科医のみでなく内科医にも多大な恩恵をもたらす、内視鏡室の増室と合わせ好循環が生み出されるものと期待されます。2024年は福岡東医療センターにとってさらなる飛躍の年となりそうです。(内山記)

外来担当医一覧 令和6年1月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。https://fukuokae.hosp.go.jp/

受付
時間

- 1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科			月	火	水	木	金
内科新患（別紙参照）			当番医	当番医	当番医	当番医	当番医
脳神経内科	新患	田中 恵理	松岡 幹晃	芝原 友也	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	松岡 幹晃	中根 博・山中圭	黒田 淳哉	芝原 友也	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	二宮 和輝	担当医	堤 礼子	
	再来	堤 礼子・二宮和輝	-	野原 栄・堤 礼子	二宮 和輝	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	亀崎 健次郎	亀崎 健次郎	黒岩 三佳	-	黒岩三佳・坂本佳治	
消化器科 (消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	黒川 美穂	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	脾 胆	藤山 隆	大越 恵一郎	松尾 享	中村 由佳里	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	中村和彦・將口佳久	平山 雅大	田中 宗浩	安部 周吉	
腎臓内科	新患	原 祥子	黒木 裕介	黒木 裕介	荒瀬 北斗	永井 涼人	
	再来	黒木 裕介	永井 涼人	堤 貴大	黒木裕介・永江洋	荒瀬 北斗	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	細谷 まるか	入江 圭	徐 理華	中村 洋文	升井 志保	
呼吸器科	新患	中野 貴子	中富 啓太	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	中富 啓太	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	吉見 通洋	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	今田 悠介	中富 啓太	
		木村 知代	萩原 拓貴	今田 悠介		中野 貴子	
感染症外来				肥山 和俊		肥山 和俊	
呼吸器外科			緑川 健介	瀧武 大輔	西野 菜々子	岩中 剛	瀧武 大輔
外科	消化器	内山 秀昭	休診（急患対応可）	井口 友宏	休診（急患対応可）	内山 秀昭	
		谷口 大介		佐々木 駿		小齊 侑希子	
	乳腺	内山 秀昭	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）	石田 真弓	石田 真弓	
	血管	休診（急患対応可）	松本 拓也	松本 拓也	休診（急患対応可）	休診（急患対応可）	
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日) 外来休診	松下 昌史	(手術日) 外来休診	
		松下 昌史	木下 英士		清水 大樹		
		岡本 重敏					
	再来	福元 真一	清水 大樹		中家 一寿		
		中尾 允哉			岡本 重敏		
					木下 英士		
脳神経外科	新患	保田 宗紀	保田宗紀・埜本僚太	(手術日)	保田 宗紀	松田 浩大	
	再来	保田宗紀・松田浩大	保田宗紀・松田浩大		保田宗紀・松田浩大	保田 宗紀	
皮膚科 (予約・紹介状をお持ちの方のみ)			中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙	中村 美沙
			藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香	藤井 晴香
小児科	午前	一般	中原和恵・松尾光通・西間大祐	黒川麻里・松尾光通	中原和恵・松尾光通・黒川麻里	李 守永・西間大祐	中原和恵・増本夏子・松尾光通
		専門(予約)	増本 夏子		李 守永	山下文也・黒川麻里	吉元(第1・3・5)石倉(第2・4)
	午後	専門(予約)	李 守永・中原和恵	水野勇司・松尾光通	李 守永・中原和恵	増本 夏子	李 守永・中原和恵
			山下 文也	西間大祐(第1・3・5)	循環器(長友雄作)	山下 文也	小児神経(藤井史彦)
			石倉稔也(第1・3・5)	血液(江口克秀)	腎臓(末松真弥)(第4以外)		アレルギー新患
			吉元陽祐(第2・4)	アレルギー(第2・4)		〈喘息検査〉	
放射線科	新患	月～金 渡辺 哲雄(※事前に必ず電話予約が必要です)					
	再来	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
歯科口腔外科		吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	(再来のみ)	
		田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大		
婦人科	新患	内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
	再来	田中章子・上杉翔	田中章子・上杉翔	田中章子・上杉翔		田中章子・上杉翔	

*小児科の入院依頼は、病院代表 092-943-2331 から
 入院依頼は入院担当医師(西間・黒川・山下文)へ、受診依頼は一般外来医師へ、
 夜間休日小児科当直へご連絡ください。

- 物忘れ外来《特殊外来》完全予約制(内科外来 内247)【担当医 田中恵】
 『金曜日 9:00～10:00』
 ※予約受付は平日 月～金 13時～16時の間でTEL 予約

- 緩和ケア外来 完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】
 『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構

福岡東医療センター

〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1

HP https://fukuokae.hosp.go.jp/

TEL 092-943-2331

0120-212-454 (地域医療連携室)

FAX 0120-087-437